

## 平成13年度評議員会・総会議事録

場 所 同志社大学

日 時 平成13年3月28日

第78回生理学会大会当番幹事・京都大学大学院医学研究科 川口三郎教授を議長として開催された。

1. **平成13年度第1回常任幹事会報告(川口当番幹事)**：平成13年3月26日に平成13年度第1回常任幹事会が開かれたことを報告した。

2. **庶務報告(本郷庶務幹事)**：生理学会会員数の報告。一般会員3,240名，特別会員32名，名誉会員10名。賛助会員38名ほかを含めて，合計3,517名。

3. **特別会員の推薦(本郷庶務幹事)**：広島大学名誉教授・菅野義信氏が特別会員へ推薦され，承認された。

4. **平成12年度会計報告及び平成13年度予算(栗原会計幹事)**：平成12年度の会計報告が付表1のとおりに行われ，賛助会員39社43口が報告された。植村会計監事から平成12年度の決算が正しく行われた旨監査の結果が報告され，決算は承認された。

平成13年度予算が付表2のとおり栗原会計幹事より提案され，会費の値上げによる収入増が見込まれると説明された。予算案は承認された。

5. **日本生理学雑誌編集報告(金子編集幹事)**：日生誌別冊の論文表題集の刊行および日生誌の編集状況について報告され，さらに日生誌の印刷所が鶴岡印刷から東京の杏林舎に変更した旨報告があった。さらに医歯大・入来篤史教授を委員長とするホームページ検討小委員会を編集委員会に作ったことが報告された。日本医大・佐久間教授から戦後鶴岡印刷に日生誌の制作を依頼した経緯が説明され，学会から鶴岡印刷に感謝状を贈呈した旨報告された。

論文表題集の刊行について質問があり，日本生理学会のメンバーの研究活動の記録としての価値を認めつつも，来年度以降継続して出版するかどうかを検討していることが金子編集幹事から報告された。

6. 同志社大学・学長・八田教授から第78回日本生理学会の開催を祝して挨拶があった。

7. **JJP編集委員会報告(菅編集委員長)**：オンラインでの編集委員会，JJPのインパクトファクター(97年に1弱，98年1.3弱，99年1.2弱)，1年間の論文投稿数(130件)が報告された。さらに49巻の6号以降オンライン・テキスト化され，2000年の50巻以降はMEDラインともリンクしたことで，現在は無料だが今年末頃からの有料閲覧への切り替えを検討していることが報告された。JJP編集委員の改選が報告され，筋生理セクションは小西真人教授(東京医大)，中枢神経生理は西野仁雄教授(名古屋大)，腎体液消化生理は河原克雅教授(北里大)，呼吸生理は本間生夫教授(昭和大)，内分泌生理は佐久間康夫教授(日本医大)へそれぞれ引き継がれ，生物物理担当の葛西委員(生物物理学会推薦)は留任することが報告された。入澤賞は，要素・ミクロ・分析的研究論文ではK. Dezaki, T. Tsumura, E. Maeno & Y. Okada: Receptor-mediated facilitation of cell volume regulation by swelling-induced ATP release in human epithelial cells. Vol 50. 2, 235-241, 2000. システム・マクロ・統合的研究論文ではS. Uchida, F. Kagitani, A. Suzuki & Y. Aikawa: Effect of acupuncture-like stimulation on cortical blood flow in anesthetized rats. Vol 50. 5, 495-507, 2000の受賞が報告された。

8. **評議員の選考について(宮崎委員長)**：28名の申請者のうち26名を推薦する旨報告があり，承認された。

9. **選挙管理委員会報告(本間委員長)**：昨年4月に行われた平成13年度科学研究費の審査員選出に関する報告があり，生理学一般，環境生理，神経筋肉生理学それぞれの審査員候補者を得票順に日本学会議に推薦した旨報告された。平成13年4月に行われる平成14年度科学研究費の審査員の選出に関する

## 平成 12 年度日本生理学会会計決算報告

自 平成 12 年 1 月 1 日

至 平成 12 年 12 月 31 日

(内 訳)	収 入			備 考
	12 年度予算	12 年度決算	差額	
A 前年度繰越金	3,036,189	3,036,189		
B 平成 12 年度収入	30,238,000	30,667,196		
会費	23,634,000	24,023,000	389,000	一般会員・臨時会員
購読料	1,539,000	1,410,500	- 128,500	準会員(研究所・図書館等)
論文掲載料	100,000	218,950	118,950	
広告料	2,600,000	2,951,760	351,760	
会誌分冊売り	5,000	17,080	12,080	
預金利子	10,000	593	- 9,407	
日本医学会奨励金	200,000	200,000	0	
印税	100,000	209,013	109,013	用語集・実習書・MCQ
論文表題集	2,000,000	1,624,000	- 376,000	
雑収入	50,000	12,300	- 37,700	
収入計(A+B)	33,274,189	33,703,385	429,196	

(内 訳)	支 出			
	12 年度予算	12 年度決算	差額	
会誌印刷代	12,000,000	11,905,289	94,711	61.10-62.9, Supplement
会誌発送代	2,700,000	2,767,589	- 67,589	同上
編集会議費	50,000	39,845	10,155	日本生理学雑誌
校正料	100,000	0	100,000	同上
原稿料	50,000	0	50,000	技術法講座
委員会活動費	500,000	350,000	150,000	教育委員会 / 若手の会
大会援助費	900,000	900,000	0	京都大学
事務室使用料	2,508,000	2,508,000	0	
事務室光熱費	300,000	279,238	20,762	
通信費	900,000	986,797	- 86,797	
事務費	900,000	938,575	- 38,575	
備品	50,000	19,194	30,806	ストーブ, 電話
会合費	350,000	294,946	55,054	幹事会, 委員会
旅費	1,600,000	1,773,570	- 173,570	同上
人件費	5,400,000	5,341,419	58,581	含(アルバイト)
社会保険	600,000	584,171	15,829	
退職金積み立て	120,000	120,000	0	
名簿積み立て	500,000	500,000	0	
論文表題集	2,000,000	1,843,450	156,550	
国際交流基金	250,000	250,000	0	
IUPS 大会準備金	250,000	250,000	0	
FAOPS 会費	800,000	735,900	64,100	\$6,000
雑費	150,000	169,093	- 19,093	
予備費	296,189	556,000	- 259,811	生理研講習会, 研連報告書
支出計	33,274,189	33,113,076	161,113	
平成 12 年度繰越金			590,309	

## 平成 13 年度日本生理学会予算

収 入		
(内 訳)	13 年度予算	備 考
A 前年度繰越金	590,309	
B 平成 13 年度収入	36,017,700	
会費	29,770,200	一般会員
購読料	1,111,500	準会員（研究所・図書館等）
論文掲載料	100,000	
広告料	2,880,000	
会誌分冊売り	5,000	
預金利子	1,000	
日本医学会奨励金	200,000	
印税	100,000	用語集・実習書・MCQ
論文表題集	1,800,000	
雑収入	50,000	
収入計（A + B）	36,608,009	

支 出		
(内 訳)		
会誌印刷代	12,000,000	62.10-63.11, サプリメント
会誌発送代	3,000,000	同上
編集会議費	150,000	日本生理学雑誌
原稿料	50,000	同上
委員会活動費	500,000	教育委員会・若手の会他
大会援助費	1,000,000	広島大学
事務室使用料	2,508,000	
事務室光熱費	300,000	
通信費	1,000,000	
事務費	900,000	
備品	300,000	パソコン
会合費	350,000	幹事会, 委員会
旅費	1,800,000	幹事会, 委員会
人件費	5,600,000	含（アルバイト）
社会保険	620,000	
退職金積み立て	120,000	
名簿積み立て	500,000	
論文表題集	1,800,000	
国際交流基金	250,000	
IUPS 大会準備金	250,000	
FAOPS 会費	800,000	\$6,000
雑費	150,000	献花, 清掃, 他
予備費	2,660,009	生理研講習会他
支出計	36,608,009	

協力依頼がなされた。

10. 教育委員会報告（佐久間委員長）：昨年 11 月

に発表された医学教育モデル・コア・カリキュラム  
試案について、本年 1 月 27 日に将来計画委員会と教

## 平成 13 年度新評議員

東京慈恵会医科大学第二生理		石川 哲也
横浜市立大学医学部第一生理		石川 義弘
日本製紙(株)岩国工場診療所		井上 正岩
浜松医科大学第二生理		井原 勇人
慶應義塾大学医学部生理		岡野 栄之
宮崎医科大学第一生理		加藤 和男
名古屋大学環境医学研究所	自律神経分野	神谷 厚範
自治医科大学第一生理		北澤 宏理
理化学研究所脳科学総合研究センター	発生神経生物研究チーム	来馬 明規
東北大学大学院歯学研究科	顎口腔機能解析分野	佐々木 啓一
大阪大学大学院医学系研究科	情報生理学 A5 講座	澤井 元
北海道大学医学研究科神経機能学	機能分子分野	澤口 俊之
佐賀医科大学生理		塩谷 孝夫
明海大学歯学部口腔生理		杉田 憲司
東京医科歯科大学大学院	システム神経機能学	杉原 泉
東邦大学医学部第二生理		竹居 光太郎
東京慈恵会医科大学第二生理		田代 倫子
和歌山県立医科大学第二生理		坪田 裕司
京都府立医科大学第一生理		丸中 良典
福井大学工学部知能システム工学科		村瀬 一之
奈良女子大学生活環境学部生活健康学		森本 恵子
大阪大学大学院医学系研究科	情報伝達医学情報生理	柳田 敏雄
近畿大学医学部堺病院麻酔科		湯浅 晴之
和歌山県立医科大学		湯川 和典
香川医科大学第二生理		米山 弘人
奈良県立医科大学第一生理		和田 佳郎

育委員会の合同の委員会を開き、その席で試案の作成に携わった千葉大学の福田教授に話を伺ったこと、3月24日に最終案が発表されたこと、さらにこの間2月28日に教育委員会として提言したこと、提言は日生誌ブルーページに掲載する旨の報告があった。またMCQ問題集の改訂を進めることが報告された。教育シンポジウム「生理学教育における情報シェアリング」について報告され、広島大会の教育シンポジウムではこれまでの教育改革への中間評価と、問題点を明らかにしたい旨報告があった。

11. 学術・研究委員会報告及び委員会の改組について(小澤委員長)：3点が報告された。第1点はIUPS国際大会の招致等を控えて、学会年次大会を充実させる必要性があり、そのため年次大会等は当番校に一切を任せるのではなくて、生理学会として一

貫した方針をもって開催し年次大会を充実させることを考えた。このための新しい委員会を作るのではなく、既存の研究費委員会を学術・研究委員会として改組し、研究費問題に加えて、特に年次大会等の学術集会の充実・活性化の世話あるいは後援を任務とする委員会として改組することが本郷庶務幹事から提案された。この件は常任幹事会で承認されている。委員構成は従来の研究費委員会の委員以外に、将来計画委員会委員長、教育委員会から委員が1名、生理研連委員が1名、IUPSの学術委員会から1名を増員して組織した事が説明された。すでに、広島での実行委員会に学術・研究委員会から3名が参加して、特別講演のあり方、シンポジウムの企画のあり方、若手研究者、学生あるいは周辺領域の人々の参加を促進する方策などを検討したことが報告された。

2点目として、科学研究費審査員候補者選挙日程の繰り上げが説明された。平成14年度分は従来のスケジュールで行い、来年行われる平成15年度からは変更することが説明された。3点目として科学研究費分科細目のキーワードの変更について報告され、学術審議会・科学研究費分科会からの照会に応じて、平成6年度に学会で準備したキーワード改訂案を提出したこと、そのうち生理学一般と環境生理のキーワードは提案が認められたようだが、複合領域の神経科学・神経筋肉生理学に関しては、現在、学術審議会でも科学研究費分科細目の見直しが行われていて未定であることが報告された。この報告に対して、投票をインターネットで行う可能性が質問され、小澤委員長は選挙管理委員会と相談して検討したいと述べた。

**12. 動物実験に関する委員会報告及び動物実験に関する指針の改定について（福田委員長）：**中島教授から福田教授に委員長が交代したことが報告された。動物実験に関する基本的指針の改定が説明され、承認された。さらに野生ニホンザルの実験使用の問題について報告があった。環境庁鳥獣保護事業計画第9次改定案に対し生理学会として意見書を提出したこと、その詳細は日本生理学会誌の4月号に掲載すること、さらに動物実験シンポジウム「野性ニホンザルの生理学研究利用に対する社会的情勢と生理学会の対応」を本日開催する旨報告された。動物委員会の今後の方針、長期的には国家的にサルの繁殖コロニーを作る必要があるためそのための要望書を作成したい、短期的には合法的な安定供給の道も探っに行きたいとの活動方針が承認された。

**13. 将来計画委員会報告（松尾委員長）：**第4回（2000年3月、第77回生理学会大会中）委員会で常任幹事の任期制・半数改選および特別枠を議論し、常任幹事会に提案したことが報告された。さらに年次大会に学会主導のプログラムを設ける提案を行い学術・研究委員会としての改組に反映されていることが報告された。第5回の委員会（7月、生理学研究所）ではIUPSの招致に賛成する委員会報告をまとめ、生理学会以外の生理研連加盟の各学会にも共催を呼び

掛ける、国内大会を同時に開催する方法等を提言した。生理学の現状と展望に関する調査・アンケートについて集中討議した。基盤研究の採択率を討議した。コアカリキュラム、チュートリアルに関する討議が紹介され、今大会で開催する懇談会を案内した。生理研連、若手の会に対する討論があったことを紹介した。

**14. 常任幹事の任期について（本郷庶務幹事）：**常任幹事会で、常任幹事の任期に関して協議して結論を得たことが報告され承認された。現行では常任幹事の再任には制限がないが、再任を制限することによって常任幹事の交代を促進し、様々な意見が常任幹事会に反映される事を促したいとの趣旨で、改正の第1は、これまでの3年任期を4年とし、1任期終了後、2年間は再選できない事にする。第2は、2年ごとに半数改選とする。これは常任幹事会の機能の継続性を保証しようという趣旨による。第3は、常任幹事の選出にあたって、特別枠を設ける。この特別枠には条件を付けず、その時々常任幹事会が必要とする人を選ぶこととし、弾力的に運営することを申し合わせた。なお特別枠幹事の選出法は秋の常任幹事会で決定して次の選挙で実施する。さらに、実施に当たっては過渡的な措置として、これまで2期以上を勤めた常任幹事は選挙の対象者からは除く。半数改選のために最初は4年任期と2年任期の常任幹事をつくる必要があり、得票数によって決める。全体として半数改選にするために、地区による違いを調整することなどの具体的な措置は、この秋の常任幹事会で決して実施に移すことが報告され承認された。

**15. 賞選考委員会報告：**堀委員長に代わり福田委員から報告された。

平成12年12月19日、全選考委員による評価点数及びコメントなどを参考にして、各申請者について審議し、9件の応募から次の3名を受賞者と決定した。磯村宣和氏（東京都神経科学研究所）、研究課題は「大脳皮質衰退細胞の樹状突起におけるシナプス統合及びシナプス可塑性に関する研究」。川田徹氏（国立循環器病センター）、研究課題は「循環調節のシステ

ム解析と臨床研究への展開」．増田正雄氏（東京都老人総合研究所），研究課題は「中枢神経系による膀胱の機能調節研究機構」．

16．国際交流委員会報告及びIUPS大会の招致について（金子委員長）：IUPS招致の問題は，昨年の3月の常任幹事会で招致検討委員会を設置し，当初は9名の委員で，第1回の検討委員会を昨年の8月に行った．IUPS大会は2001年ニュージーランドのクライストチャーチ，2005年アメリカのワシントンD.C.であり，日本に招致する場合2009年となること，したがって招致検討委員会に若手の参加をもとめて，さらに5名の参加を依頼した．昨年の10月に第2回を開き，検討した．一方この時期にIUPSの事務局から意思表示の締め切りが本年の2月15日であるとの通知が届き，昨年12月の常任幹事会で長時間にわたり大会招致の問題点を議論した結果，消極的な賛成者2名を含め全員が2009年にIUPS大会を日本に招致することに賛成であり，招致に向かって準備をすることが決まった．第3回の招致検討委員会を今年の1月に行い，大会を招致することによって得られるメリットとしては，日本から情報発信をし，日本が世界の生理学会の中において重要な役割を果たしていることを示すこと，さらに国際交流を進めることにより，日本の若手研究者と世界の生理科学者との交流を盛んにすることなどが確認された．財政的なこと，およびさまざまな準備にかかる負担の検討も進めた．2月2日に本郷庶務幹事の名でIUPS招致の提案を日本生理学会が行った．その内容は，2009年7月27日から8月1日まで，京都国際会議場においてIUPS大会を行いたい，中心テーマは“Function of Life Elements and Integration”とする，2009年にはこの国際大会と日本生理学会の大会を合同開催し，日本生理学会員の積極的な参加を求めたい，予算規模は過去の例も考え，適当と思われる会費の額として早期登録料が3万5,000円，学生会員と同伴者は1万円とする，トータルの予算規模は1億7,000万円から8,000万円と考える，というものである．IUPSからは大会を企画するコアメンバーを挙げて提案することが求められたので，ローカル・オーガナイズング・

コミティーは，江橋節郎先生と伊藤正男先生に名誉会長を依頼し，会長＝金子委員長，プログラム委員長＝倉智，会計＝栗原，庶務・セクレタリー＝岡田，委員＝本郷，小野，津本，御子柴とし，またローカル・プログラム・コミティーの委員＝松尾，本間，丸山，大森，宮下，岡野として，提案書を送った．今後のプロセスとして，今年の8月にクライストチャーチで行われるIUPS大会において，立候補している国の中から代議員の投票で開催地が決まること，日本のほかにスペインとオーストリアが立候補していること，招致を実現するためには魅力のある大会を開催することを世界に向けてアピールしていく必要があることが説明された．

さらに，IUPSとFAOPS関連の報告がされた．IUPS大会は本年8月にニュージーランドで開かれる，IUPS大会開催地の決定を行う代議員会に日本も代議員として6票の投票権を持っているが，代議員の最終的な人選は本郷庶務幹事に一任した旨報告された．またFAOPSの活動として，ニュースレターの発行を年に2回おこなっており，日生誌とともに配布していること，FAOPSのコンGRESSは昨年プリズベンで開かれたが，2002年にはマレーシアのクアラルンプールでコンGRESSを開く予定であることが報告された．

17．日本学術会議生理研連委員会報告（本郷委員長）：学術会議は，昨年から第18期となって3年間続く，生理学研連の委員は12名の半数が改選され新たに出発した，この3年間の活動の方針として，1つは，シンポジウムを企画・実施していき，第2に，科学研究費の制度について検討していく，それぞれワーキンググループをつくって作業をすることとした，と報告された．科学研究費に関して，生理学研連がその運用に関与する仕方が昨年度から変わった，すなわち，一昨年までは機械的に日本学術会議の事務局から直接学会に科研費審査委員の推薦依頼を行っていたが，昨年からは学術会議から一旦研連に行き，研連が各学会に推薦依頼する，そして各学会からの推薦を研連が受け取り，学術会議に報告するという方式に変わり，研連がそれぞれの分野で科研費の推薦作業に直接携わることになったことが説明された．

18. **第80回日本生理学会大会の当番校について**  
(本郷庶務幹事)：第80回大会は福岡大学の今永教授と河田教授に当番幹事を依頼して開催するとの常任幹事会の決定が報告され、承認された。これを受けて福岡大学の今永教授が挨拶した。平成15年、2003年に福岡で医学会総会が開催され、その分科会として第80回日本生理学会を開催する、産業医科大学、九州大学、福岡大学、久留米大学が協力して開催する、会期は3月の15、16、17日を考えている、薬理学会が同じく福岡で開催されるので何らかの形で幾つかのシンポジウムを共同開催することを考えていると述べられた。

19. **第79回日本生理学会大会の準備状況報告**：次期当番幹事の広島大学・緒方教授から、会場は広島女子大で、2002年の3月28日から30日を予定しているとの報告があった。詳細は、第1報を日本生理学雑誌の3号に掲載予定。シンポジウムを15から20題、一般講演を200から300題程度、それからポスターを400から500題程度を考え、運営方式は前回の慶応大学の例に近いものを予定しており、それに加えて、現在3題の特別講演も折衝中、と報告された。

20. **第78回日本生理学会大会報告** (川口当番幹

事)：本郷庶務幹事から学会の活性化と、生理学の統合ということ京都大会当番幹事に宿題として出された。それで、異分野の方々に入っただき活性化を考えた。シンポジウムで349題、ポスターで686題、合計1,035題。事前の参加登録が1,646名、当日の参加登録が、本日の10時の段階で、372名であり合計で2,018名の参加登録があった。発表演題が1,000題を超え、それから参加登録が2,000を超えたのは恐らく初めてであろう。21世紀に入って初めての日本生理学会大会が将来の研究の発展につながる異分野の方々との交流の場になり、また学生諸君など若い方々への研究の誘いになることを願っている。以上のことが報告された。

21. **JJP 平成12年度優秀論文賞(入澤賞)表彰**：本郷庶務幹事より表彰状授与

22. **第2回日本生理学会奨励賞表彰**：本郷庶務幹事より表彰状授与。引き続き3名の受賞者による研究発表が行われた。

23. **謝辞**：4人の当番幹事に対して、昨年度の当番幹事の慶応の植村名誉教授、金子教授から謝辞が述べられた。